

新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

平成28年5月1日

第 22 号

資料紹介 渡辺浩太郎市長、 アメリカで新潟の地盤沈下を語る ～国際課より引継ぎの平成16年度歴史公文書～

掲載した資料は、平成16年度に国際課から引き継いだ「昭和30～36年度 米国関係文書」の中に収められた、『ロサンゼルス タイムス』昭和36（1961）年2月23日付の新聞記事です。写真のキャプションには、「同じような悩み—日本の新潟市長渡辺浩太郎氏が手振りで、ロングビーチ港湾協会長のデービス氏に新潟市の地盤沈下問題を説明している。ロングビーチも同じ問題を抱えている」とあります。

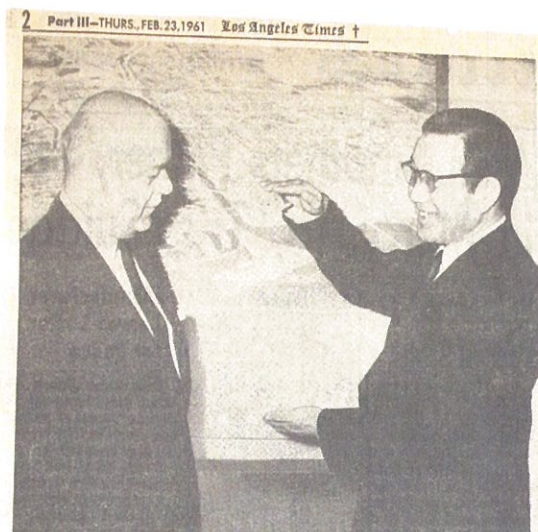
昭和36年1月3日から3月2日にかけて、渡辺市長は、主に都市計画の視察を目的に渡米しました。この視察は1948年制定の合衆国広報教育交流法に基づいてアメリカ国務省が招待したもので、新潟—ワシントン間の往復旅費ならびに個別行政課題の視察旅行費を、アメリカ側がすべて負担するというものでした。視察計画書によれば、滞在中の1月20日には、J・F・ケネディ大統領の就任式にも出席したそうです。

視察も終盤にさしかかった2月20日頃、渡辺市長一行はロサンゼルス郊外の都市ロングビーチを訪れました。そこで市長は「新潟市では百万立米の天然ガスを地下から採掘したことによって、市内各地で地盤沈下インチが起きている。ある沈下の中心部では、年間18吋（45cm程度）も沈んでいるので、海水の浸入を防ぐ堤防をいくつも構築している。そこで地盤沈下を食い止めるために、ロングビーチ市で実証済みの地下注水法を試みた。その結果、新潟市の地盤沈下の進行は停止しつつある」と、当時の新潟市にとって切迫した行政課題であった「地盤沈下」について熱心に語り、感謝の意を表したのです。これには対応したロングビーチ港湾局の役員も思いがけない驚きだったと、新聞は述べています。この渡米では、「港湾都市の振興」「地方自治行政」「教育庁の組織運営」なども視察対象としたようです。

また、このアメリカ訪問のもうひとつの重要な目的は、新潟市と姉妹都市になる相手を探すということだったようです。このような交流から、新潟市はロングビーチ市を姉妹都市提携の相手として模索し

た模様です。しかしながら、戦後新潟における国際交流の先鞭をつけた新潟アメリカ文化センター館長の推薦などもあり、新潟市は最初の姉妹都市となるガルベストン市（アメリカ）とハバロフスク市（ソ連、現ロシア）と、昭和38年に交流を始めました。そして翌年の新潟地震における支援などを経て、昭和40年に両市と姉妹都市の提携を結びました。

この渡辺市長の渡米は、新潟市が姉妹都市縁組に積極的に進みきっかけとなる外国訪問であったと同時に、現在の活発な新潟市の国際交流の原点となったものといえましょう。



SIMILAR PROBLEM—Kotaro Watanabe, the mayor of Niigata, Japan, uses his hands to indicate to Long Beach Harbor Commission President J. P. Davis the extent certain areas of his city have sunk. Long Beach has similar problem. (Times photo)

Japanese Mayor Tells of Subsidence Problem

Long Beach Harbor Department officials have received warm praise and thanks from the mayor of Niigata, Japan.

The thanks came as a sort of surprise.

Reason for the thanks, explained Mayor Kotaro Watanabe, was that his city of 320,000 persons has used methods of water injection to combat a subsidence problem there. The methods used in Niigata were taken from the experiences in Long Beach, Mayor Watanabe said.

Natural Gas Removed

"Our subsidence problem has been created by the removal of more than 1 million cubic meters of natural gas," Mayor Watanabe explained. "Our big difference is that we have developed many centers in the subsidence area and not just one as you have here in Long Beach."

Certain areas in Niigata have sunk as much as 15 inches a year and dikes have been built to keep the city from being flooded by salt water.

the Japanese mayor said. Adoption of the water injection program started in Long Beach has virtually halted the land-dropping process.

Studies Methods

During his visit to Long Beach Harbor, Mayor Watanabe studied Long Beach's methods of hauling in dirt from adjoining areas to raise land areas in the port district and methods of raising and repairing cargo sheds and other port buildings and equipment. He said that such methods may be used in Niigata in the future.

The visiting Japanese official arrived in Long Beach from San Diego. Today he goes to San Francisco. He is on a 60-day tour of the United States under auspices of the State Department.

昭和36年2月23日付の『ロサンゼルス タイムス』記事
（国際課「昭和30年～36年度 米国関係文書」より）

平成27年度事業概要

今年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史文化課では、古文書等の複製資料や、図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備担当へご連絡ください。今年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	47	56	117	22	33	275
複写	37	52	72	17	36	214
掲載	6	0	8	0	18	32
計	90	108	197	39	87	521

(平成28年3月31日現在)

■資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は中央区（6か所）・東区（3か所）・西区（1か所）・江南区（1か所）・秋葉区（2か所）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は328点（紙文書148点、電子文書180点）、文書箱にして38箱を引き継ぎました。

■資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。今年度の整理状況は次のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
中央区関屋田町 小松彰彦氏寄贈資料	寄贈	1	マッチ箱パッケージ
中央区早川町 近藤氏旧蔵写真	寄贈	24	新潟地震写真ほか
秋葉区大安寺 坂口家文書	寄贈	505	近世～現代地域資料
村上市 大瀧雄次氏収集文書	寄贈	108	市内絵葉書ほか
西区山田 枝並金蔵氏収集文書	寄贈	332	社会運動関係資料

②歴史資料のマイクロフィルム撮影と複製本の作成

歴史資料のマイクロフィルム撮影およびデータ化

と、焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数は22本、作成した複製本は次のとおりです。

・飯山家文書（明治～昭和期）

簿冊数：70冊（データ化したDVD：3枚）

・福原家文書（幕末～昭和期）

簿冊数：8冊（データ化したDVD：1枚）

・吉田新田古文書（明治～昭和期）

簿冊数：68冊（データ化したDVD：3枚）

③旧更正図・土地台帳の移管と整理

資産税課から、旧豊栄・亀田・横越・新津・小須戸・岩室・西川・巻の旧更正図・土地台帳を歴史文化課に移管を受け、横越公文書分類センターで整理・目録作成をしています。完了したのから順次公開しています。詳しくは歴史資料整備担当までお問い合わせください。

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月5・19日、10月3・17日に、新潟市万代市民会館で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、毎回150名を超える多くの方々にご参加いただきました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

日程	講義名	講師
9/5	いわゆる「平安越後古図」の謎	県立歴史博物館専門研究員 浅井勝利
	「木造伝島山重宗夫婦坐像」の胎内銘を読む ～鎌倉南北朝期の蒲原津・沼垂湊を考える～	歴史文化課 長谷川伸
9/19	内野新川の開削と伊藤五郎左衛門	県立文書館文書調査員 斎藤寿一郎
	川村修就と遠山金四郎～川村家文書「公事方諸向文通留」を読む～	歴史文化課 島垣 武
10/3	「新潟湊之真景」が語る開港地新潟	新潟郷土史研究会副会長 菅瀬亮司
	日和山の水先案内人～水戸教関係資料を読む～	歴史文化課 高野まりい
10/17	新潟の太平洋戦争	前県政記念館長 植村敏秀
	写真で見る新潟の下町～明治から平成へ、移りかわりから見えてくるもの～	歴史文化課 唐沢哲也

■歴史パンフレット『新潟市のあゆみ』の発行

平成19年3月に発行した歴史パンフレットの改訂版を発行しました。今回の改訂では、政令市新潟の歴史を多くの方に知っていただくため、写真や歴史地図等を掲載し、市内各区の歴史も分かりやすく解説しています（A4版、40ページ）。新潟市内の図書館や博物館施設等で閲覧できます。

新潟の歴史こぼれ話 (8)

松尾芭蕉が泊まった「大工源七」

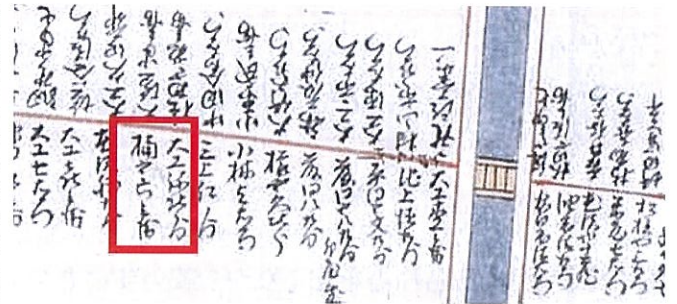
松尾芭蕉が弟子の曾良^{そら}をともない、元禄2(1689)年3月から同年9月までの約150日間、東北・北陸地方を巡った記録が、紀行文「おくのほそ道」としてまとめられています。

その旅の途中、芭蕉らは新潟に宿泊しています。曾良の日記によると、7月2日(陽暦8月16日)、申の刻(午後4~6時頃)に新潟に着き、追込宿(大勢の客を詰め込む安宿)のほかは泊めてくれず、「大工源七」の母が「有情」(親切)で泊めてくれたとあります。この「大工源七」については資料がなく、様々な推測ができるのですが、ここでは旅籠屋^{はたご}だったとする、ひとつの説を紹介します。

当時の新潟町では一夜泊まりの旅宿は古町だけと決まっていた。なかでも古町通二・三ノ町(現在の古町通5・6番町)を旅籠町ともいい、旅籠屋はこの町内でしか営業ができませんでした。

「大工」といっても、職業が大工職人とは限りません。時代は下りますが、寛政年間(1789~1801)に作成された「新潟町屋敷銘々名前付絵図」を見ると、旅籠町の古町通二・三ノ町には「大工」屋号の屋敷が8軒あります。この町に住む者がすべて旅籠屋を営んでいたわけではありませんが、「大工」屋号の旅籠屋があったことは予想できます。

新潟明和騒動の顛末^{てんまつ}を記した「旭湊俚諺明和問



「新潟町屋敷銘々名前付絵図」(部分、新潟市所蔵)

記」には、明和7(1770)年、新潟へ護送された涌井藤四郎と岩船屋佐次兵衛が「木賃宿六兵衛」(桶屋六兵衛)方、「物頭目附」が隣の「大工弥次右衛門」方に「止宿」したとあります。このことから「大工弥次右衛門」が旅籠屋だったことがわかります。

「新潟町屋敷銘々名前付絵図」の古町通三ノ町付近を見ると、「桶屋六兵衛」と「大工弥次右衛門」の屋敷が並んでいます。もしかすると、旅籠屋の「大工弥次右衛門」が「大工源七」の子孫で、この屋敷が旅籠屋「大工源七」だったのかもしれない。

さらに推測を進めると、「木賃宿」しか空きがなく困っている芭蕉らを見た隣の旅籠屋「大工源七」の母親が、声をかけて泊めたのではないかと考えることができます。

これはあくまでも推測で、現在では確かめることはできませんが、いろいろな資料をもとに「大工源七」について推測してみるのも歴史の楽しみ方のひとつだとは思いませんか。

幕末の新潟奉行所役人の再就職事情 ～「歴史資料だより」第21号・補遺～

前号の資料紹介でとりあげた福原貞造他15名の新潟県庁への奉職願の背景には、幕臣がどのように明治維新を生き抜いたのかという問題がありました。

慶応4(1868)年5月、明治新政府は徳川家を駿府城主に封じ、70万石の大名としました。静岡藩の成立です。旧幕臣つまり徳川家の家臣の数は全国に3万人余り、福原同様に職務で遠国生活をしている者も含まれます。しかし、静岡藩が召し抱えられる藩士は5千人程度だったので、徳川家は、①新政府に帰順して朝臣(新政府の役人)となる、②徳川家を離れ商売や農業をする、③無禄になっても静岡に移住する、という3つの選択肢を示して家臣をリストラしました。ところが、財産はなくなっても徳川家のそばにいたいと無禄移住を希望する者が大多数

だったということです。

これに対して福原らは選択の余地なく「越後府民政局」に雇われたので①となり、明治2(1869)年に「朝臣願」と「明細短冊」(履歴書)を提出しました(資料No.A-109-28・81)。一方で福原らは③幕臣として静岡藩に帰籍すべきか悩みます。同年9月「府県に奉職した者には秩禄(家の俸禄)を与える」との布告を受けて、福原らは秩禄下賜を静岡県に願い出ましたが(No.22)、遠路隔絶を理由に返事は来ませんでした。

新潟県はこの件について静岡県と交渉しましたが、「慶応4年の段階で遠国で新政府に出仕した者の処遇は関知せず」との回答でした(No.42)。このため、福原らは改めて新潟県の職員になることを望み、奉職の嘆願書を出したのでした(No.91)。福原らの徳川家に対する忠節の思いと現実的な願いは、新政府と徳川家のリストラ策に翻弄されたのでした。

写真紹介

新潟市の学校の記念葉書 (写真)

明治5(1872)年の学制公布以来140年余りがたちました。その間に、数多くの学校が設立され、あるものは、現在まで名称等を変えながら続いています。また、惜しまれつつその役目を終え、閉校となった学校もあります。

学校の歴史については、各学校に保存されている「学校沿革史」や周年記念行事で作られた「記念誌」、「葉書(写真)」などにより、学校の成り立ちや当時の様子をうかがうことができます。

今回は、個人の方から市に寄贈された貴重な学校の記念葉書(写真)を紹介します。

写真1 新潟医学専門学校は、明治43年に官立学校として開校しました。

写真は、大正4(1915)年の第5回創立記念祭に際して作成された記念葉書10枚の内の1枚です。校舎の全景が写されています。敷地内には、江戸時代末に砂防林として植樹された松も残っていました。

その後、大正11年に官立新潟医科大学となり、昭和24(1949)年に新たにできた新潟大学の医学部となり、現在に至っています。

写真2 新潟県立新潟中学校は、明治25年に南浜通(中央区)の仮校舎にて開校しました。翌年、校舎が関屋の地に完成し、移転しています。

写真は、大正11年の校舎改築と創立30周年記念行事の際に作られた葉書の1枚です。新校舎の写真とともに英文で30周年と学校名が書かれています。この式典では、新しくできた校歌も披露されました。

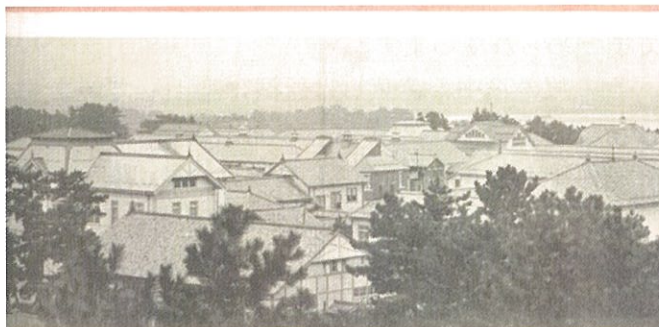
戦後の学制改革により、昭和23年に県立新潟高等学校となりました。

写真3 豊照小学校は、明治6年に旧新潟町に初めてできた小学校5校の内の1つです。

写真は、昭和8年3月に行われた創立60周年記念事業の際に作られた葉書です。昭和4年に落成した新校舎と共に13代山田正八郎校長の写真が印刷され

ています。当時の児童数は、1,390名と記念資料に書かれています。

豊照小学校は、平成27(2015)年3月に近隣の湊、栄、入舟小学校とともに閉校し、4月に新潟市立日和山小学校が新設されました。



新潟医学専門学校全景

写真1 新潟医学専門学校全景
(見開きのパノラマ写真の中央部分)



写真2 新潟県立新潟中学校の校舎正面

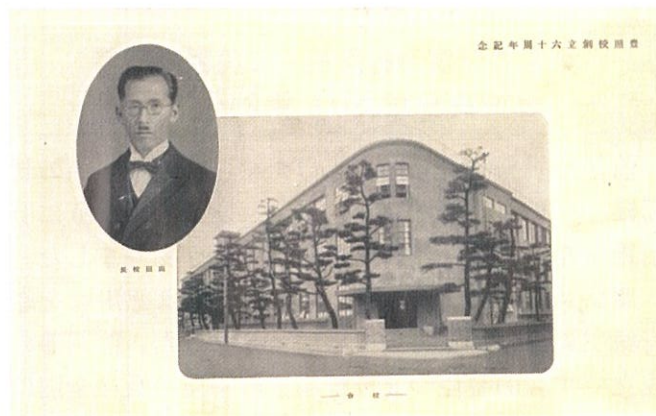


写真3 新潟市立豊照小学校校舎と山田校長

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、教えてください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課 歴史資料整備担当

〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425番地9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp